

シリーズ・こだわりの会員

イギリスと日本の鉄道の今昔を考える

田中宏技術士事務所 代表

AJCE 理事 技術交流委員会副委員長 田中 宏

FIDIC - 2009年ロンドン大会に参加して、多彩な行事の中でイギリスと日本の鉄道の今昔を考えた。

来賓の真白いスーツ姿のアン王女は、産業革命発祥地のイギリスで催されるこの大会の今日的な意義と今後の持続可能な発展にかかわるエンジニアリング・コンサルタントの役割の重要性についてお話をされた。



FIDIC - 2009年でのアン王女（筆者撮影）

メイン・ゲストのクリス・モール英国交通大臣からユーロスターやロンドン・オリンピックの輸送対策について講演があった。

この講演に少し資料などから補足すると、2007年11月にロンドンからユーロトンネル入り口までの高速鉄道が開通し、ロンドンの発着駅をウオータールー駅からセントパンクラス駅に変えてホームも全面ガラス張り屋根とした。ユーロスターにより、ロンドン パリ間が2時間15分、ロンドン ブリュッセル間も1時間54分となった。また、2009年10月に、この高速線の途中から在来線に乗り入れる新在直通運転（日本で言えば、山形新幹線に相当）が始まり、この輸送には日立製作所の高速度車両Class395系が使用されており、現

地では「日本の新幹線がやってきた」と報道された。日立は運行やメンテナンスも含めたフルターンキーで契約を行ない、2012年のロンドン・オリンピックの会場となるストラットフォードまでのシャトル輸送にもこの車両を使うことが決まった。



イギリスを走る日本製の高速電車
（日立評論2007年11月号から）

ところで、明治維新の2年後、イギリス土木学会会員のエドモンド・モレル氏はわが国に招聘され、新橋と横浜間の鉄道計画書をつくり、建設の指導をした。それこそ今で言うフルターンキーで、イギリスからレール、機関車、客車、信号機などが輸入され、営業開始後はイギリス人機関士が運転をした。モレル氏は「日本の技術者の恩人」と言われているが、一つには国産の材料を積極的に使用することを勧め、二つには将来のために技術者の教育機関の設立を提言し、工学寮 工部大学校（東京大学工学部の前身）の創設を助言していたからである。日本製の高速電車がイギリスの首都を走っている140年後の姿を、横浜の外人墓地に眠るモレル氏が見るとすれば、随分と驚くことだろう。

本シリーズは「こだわりの会員」と題して、技術士事務所などを経営している会員の皆様から、専門分野の紹介、コンサルティング業への期待や建設的意見、業務受注や生産方式、プロジェクト紹介、座右の銘や趣味等々、自由に投稿いただくという企画です。様々な分野でご活躍をされているこだわりの会員をご紹介しますのでご期待ください。

シリーズ・こだわりの会員

「こだわり」

有限会社クープラス 取締役社長

AJCE 監事 技術交流委員会 花岡 浩

「こだわりの会員」記事の執筆を依頼されて、あらためて私にとって「こだわり」とは何かについて考えると、「気になってしょうがない対象」、「自分の周辺或いは世の中に価値があると思われること」、「深さや広さがあるって簡単な最終目標が見えない」、「継続性がある」のうち3項目位の特性を持っているもの」となった。還暦を既に過ぎている現在、上記条件に当てはまるものは何だろうか。

趣味の世界はオタクという言葉に近い感触もあるが、「こだわり」の為には自分の周りに価値ある一面も有ってほしいと思う。この点から言えば、母校の有段者を含む高校生に対して「囲碁指南」していることに、生徒からの新鮮さの享受も有って、「こだわり」を感じている。

翻ってエネルギー関係技術をベースとしている仕事関係が本筋であるとして考えてみる。2年ほど前のAJCEの継続技術セミナーにおいて「海外火力の省エネプロジェクト活動」について話をさせて頂いた際にコンサルティングエンジニアとしての要件を述べたが、更に要約したものを下表に纏めてみた。

要件項目	留意点
信頼確立 (コミュニケーション力)	最重要視点・姿勢(キーパーソンと共感の保有)
専門力	事前準備が最重要
総合判断力	問題の核心の把握
リスク対応力	冒険と無謀のハザマ、「なんとかなるか」の判断
領域を超えたスキル	隣接分野への挑戦

順番に「こだわり」の感じ方を整理してみる。

まず“関係者との信頼確立”は相手の要望を満たすためにも新たな出会い毎に獲得したいものであり、最初のプレゼンテーションで意志が伝わるように強く「こだわって」いる。

次の“専門力”や“総合判断力”は業務の核心すぎて、

「こだわり」を超えたものと感じるが、それでもシステム技術を経験してきた意識から、ものごとの現象や特徴を鳥瞰図的な観点から本質をわかりやすく説明したいという「こだわり」はある。

“リスク対応力”は未経験分野を試みようする時に必要となり、またチャレンジは未知の出会いやスリルが有って興奮もする。冒険と無謀の判別判断に際して「こだわり」に近い何かを感じる。

“領域を超えたスキル”も「こだわり」の条件を多く含んでいる。

この場合の「こだわり」程度を示す一つの指標は所有している関係物の量であろうか。

業務上の必然領域は除いて調べてみると、「経済学」の本が10冊程ある。多くは途中で読破を断念しているが経済学はグラフや式も多く含み理科系脳を刺激もした。実は社会人向けの短期間の「経済学講座」が有ったので受講したこともあった。

経済学はエネルギーや環境問題と強い関わりがあると思うのであり、技術と異なった視点から見えたら面白いと思う。少し学んで直ぐに役立つほど甘くはないとも思うが、一方此までプロセス制御の経験で得た時間軸の感覚やエントロピー概念に基づく効率性の視点を自分なりに重ねたらどう見えるかという極く極く淡い期待もある。また直接仕事に結びつきにくいものとして経済学は文学にも劣らなそうだが、それ故にか「こだわり」を感じている。とうとうこの春から大学で講義を受講することとなった。ただ学んだばかりの経済学で言うこの為の「機会費用」(他を選択する機会を犠牲にする費用)は大きいようだ。

本シリーズは「こだわりの会員」と題して、技術士事務所などを経営している会員の皆様から、専門分野の紹介、コンサルティング業への期待や建設的意見、業務受注や生産方式、プロジェクト紹介、座右の銘や趣味等々、自由に投稿いただくという企画です。様々な分野でご活躍をされているこだわりの会員をご紹介しますのでご期待ください。

